

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、7月28-29日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)において、フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標を5会合連続で3.50-3.75%に据え置くことを決定しました。今回の採決では、賛成9名、反対3名で、ハマック・クリーブランド連銀総裁、カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、ローガン・ダラス連銀総裁が0.25%の利上げを主張して反対票を投じました。

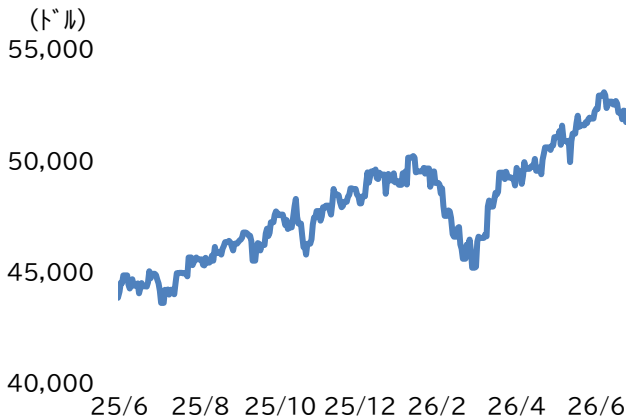
FOMC後に発表された声明文では、景気判断に関して変更はなく、バランスシート運営については「銀行システム内に十分な準備預金を維持する政策を再確認した」から「銀行システム内に十分な準備預金を維持する政策を継続している」へ変更されましたが、大きな変更はみられませんでした。

ウォーシュ議長はFOMC後の記者会見で、「市場価格は、市場が適切と判断する方向と規模で反応し続ける」と発言し、前回と今回のFOMC間の市場金利の上昇は、市場がFRBではなく、金融経済データに反応した結果であると評価しました。また、インフレへの対策としては、利上げが「唯一の手段ではない」としたうえで、「期待インフレ率を適切な数値の周辺に集中させること」を挙げ、この点について期待インフレ率の安定に進展がみられたとの見解を明らかにしました。

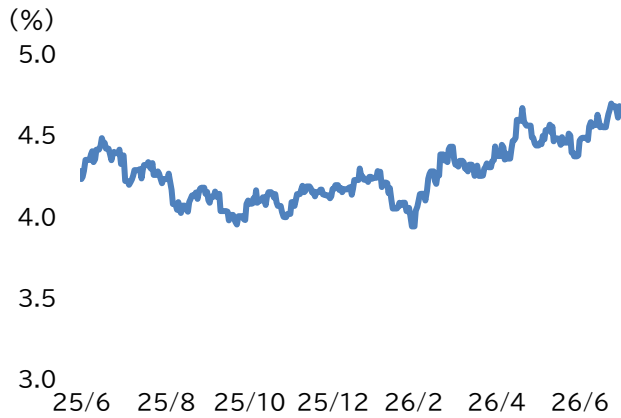
市場の反応(米国市場)

米国株式市場では、FOMCでの利上げ見送りを受けて下げ幅を縮める局面はあったものの、中東情勢の緊迫化に伴う原油高やAI関連投資の先行き懸念から下落し、NYダウは前日比1,153.18ドル安の51,594.14ドルで終わりました。債券市場では、9月会合での利上げ観測が後退した一方、原油高やビハインド・ザ・カーブが懸念されたことで長短金利差が拡大し、米国10年国債利回りは4.68%まで上昇(価格は下落)しました。為替市場では、米国の利上げ見送りを受けて、一時1ドル=163円台前半までドル安・円高が進みました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2025/6/30～2026/7/29、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回のFOMCの結果を受けて、市場が織り込む9月利上げの可能性は9割程度から6割程度へと低下しました。3名が利上げを主張して反対票を投じたにもかかわらず、利上げ観測が後退した背景には、ウォーシュ議長がインフレへの対応手段として「利上げが唯一の手段ではない」との認識を示し、今後の政策方針について明言を避けたことがあります。

一方で、利上げ観測の後退が株価上昇を通じて金融環境の過度な緩和につながれば、インフレの高止まりが継続しやすくなり、FRBが利上げを余儀なくされる状況になることも考えられます。また、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇は、供給側からインフレを押し上げ、FRBの政策判断を利上げ方向に傾ける可能性がある点にも留意が必要です。

次回9月のFOMCまでに雇用統計と物価統計がそれぞれ2回発表される予定であり、その内容次第では市場が大きく変動する可能性があります。引続き、雇用・物価統計を中心とした金融経済統計のほか、高官発言にも注視が必要とみています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
2026/7/30-31	日銀金融政策決定会合
2026/8/27-29	ジャクソンホール会議
2026/9/9-10	ECB理事会
2026/9/15-16	FOMC

出所: Bloomberg